

かつて評論家の亀井勝一郎さんは、『北海道の花はジャガイモ』と述べていました。7月ころ北海道を旅しますと、どこへ行ってもジャガイモの花絨毯が見られ、その言葉を実感します。

ジャガイモの花の鑑賞時間帯としては、朝をお薦めします。午後になりますと花卉がしぼんでくるからです。

花の数は、1房につき、10個前後です。房の数は早生種では主茎の数と等しいのですが、晩生種や肥料を多くやった場合には第1花房だけでなく、その上に2段、3段にも咲いてきます。

開花は規則的で、何日前から咲いたかなど一目で判ります。たとえば、今3個の花が咲いており、散った跡が無いとしますと、この花は3日前に咲き始めたことを語っています。初日は1個のみ、2日目はもう1個加わり合計2個……と言うように咲いていきます。そして1つの花は数日咲いて花梗を落してしまいます。10個以上あると、仲間がまだ咲いている間に受精したものは子房が脹らんでベリーとなります。

花梗が大きく2分しているものは、1日に左右1つずつ併行して咲いていきます。

開花初日の花卉は外への反りが強く、2、3日目のものは反りがしだいに消え、大きく見えます。この期の雌しべ（花の中央の黄緑の柱）は粘っこい液を出していて、花粉が付きやすい状態になっています。

また周囲の5つの黄色い葯を下にして軽く叩きますと、葯の先に1つある褐色的花粉口からたくさんの花粉をだします。

花卉の数は5つで、その5稜は、隣とくっついていますが（合弁）、間違えて離弁に描いた絵を時どき見つけます。

ジャガイモの近縁種のなかには5弁の切り込みが深く、サッポロビールのマークのように、星状のものもあります（*S. commersonii* 種など）。また、花卉の裏の色が表と違い、表が白でも紫になっているものもあります（*S. demissum* 種のある系統）。

長い間ジャガイモをいじっていますといろいろな変わり種に出会うことがあります。雌しべが2本のものとか、「紅丸」品種で花卉の無いのを見たこともあります。これをたくさんまとめて植えたところ黄色い花畑に見えました。近縁種には

正真正銘の黄色もありますが、黄色は非常に稀です。ペルーに自生している *S. pennellii* 種に見ることができます。

1991年6月には4弁の花を見ました。クローバで4つ葉のものを発見すると、ハッピーな気持ちになりますが、ジャガイモではそれ以上にめずらしいことです。

キリンビールが「ジャガキッズ パープル」として売っていたものを植えたところ、1株の特定の1花房に見ました。畑に日参しましたところ、3日目以降は正常の5弁の花が咲いていました。

ジャガイモ の 花の鑑賞(I)

花の咲き方

ホクレン米麦農産推進部

浅 間 和 夫